

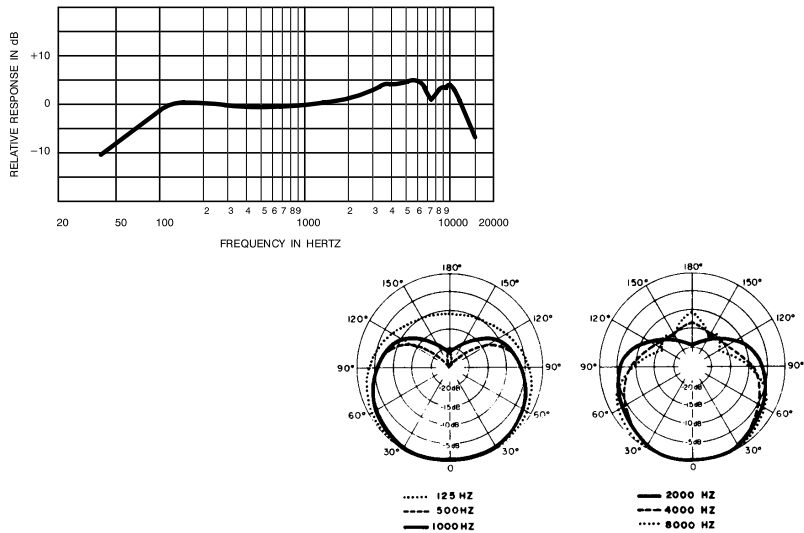


SM58			
種類	ダイナミック型	指向性	カーディオイド
主な用途	ボーカル・ナレーション	市場価格	8,000～15,000円
使用頻度	PA ★★★★★ REC ★★	放送	★★★

ハンドボーカルマイク用として開発されたもので、マイクを口に近づけて歌う事を前提としているために、近接効果の分だけ低域をカットしてある。シューアも15cm以内もしくはウインドスクリーンに唇がつくぐらいに近づいての使用を推奨している。

また強力なウインドスクリーンを装備しているので吹かれに強い。絶対吹かれが起きない訳ではないが、吹かれたときの音もあまり嫌みな音にならないことからPAの世界ではボーカル用マイクのスタンダードだ。逆に強力なウインドスクリーンのため高域特性が犠牲になっている面もあり、ハンドマイクを基本的に使わないレコーディングや放送ではあまり使われる事がない。

1966年発売だからもう40年使われ続けていることになる。その間シューアを含めマイクメーカーやエンジニアがさぼっていたわけではなく、幾度となく「もうゴッパじゃないでしょ。」と違うマイクが一瞬流行るが、いつの間にかSM58に戻ってきちゃうのだ。まあPAスピーカのメーカーなどは当然SM58を基準に設計するので、他のマイクは不利という面もあるが…。



SM58の周波数特性と指向性パターン

## C 414

種 類	コンデンサ型	指 向 性	スーパー/カーディオイド /無指向性/双指向性
主な用途	楽器一般 ボーカル	市場価格	90,000 ~ 200,000 円
使用頻度	PA ★★★	REC ★★★★★	放送★★★★

スタジオ用のコンデンサマイクの定番マイク。ノイマンの U-87 と渡り合える実力を持ちながら価格は約半分なので、普及率は高く PA などでも使用される。通称「よんいちよん」「弁当箱」

このマイクにはいろいろと細かい種類があって、それぞれ音質がかなり違う。



### C 414 Comb

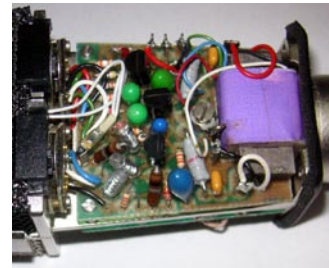
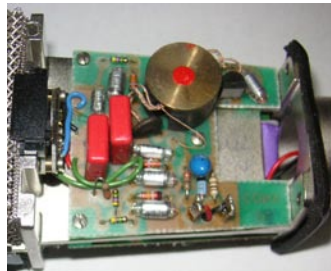
C 12 という人気のあった真空管マイクをソリッドステート（半導体による回路）化したもので、現在ではかなりレアなマイクだ。下の台形の部分はマイクフォルダ部分で同時にここで XLR コネクタに変換している。裏側には -10dB のパッドスイッチのみ。1971 年発表。



### C 414 EB

1976 年に発表された XLR コネクタに対応したモデル。このモデルで 414 の音が決定し、レコーディングスタジオに一気に普及した。今も現役で使用されているが、2 世代前になってしまったので昔からあるスタジオや音響屋さんでしかお目にかかれないかも…。これ以降のモデルに比べるとちょっとぎらついた音で、ある意味 AKG らしい音。ボディ全体が銀色なのはこのモデル。

このモデルからパッドが -10dB と -20dB の 2 段階になり、さらに 75Hz と 150Hz のハイパスフィルタが追加された。



C 414 EB の内部。ディスクリート回路でごちゃごちゃした印象だ。

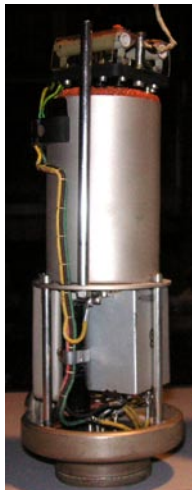


CMV 3			
種 類	コンデンサ型	指 向 性	カプセルによる
主な用途		市場価格	N/A
使用頻度	PA	REC	放送

ノイマンが1928年に最初に送り出したコンデンサマイクの大ヒット機種。その当時はナチス党が台頭し政権を取るころで、ヒトラーの演説画像にはこのCMV 3が多く映っている。かなり大型のマイクで半径は9cm 高さは40cmを超えるが、その代わりにその強靱なボディの信頼性は高く、1936年のベルリンオリンピックにはそこら中とわいいいほどこのCMV 3が使われた。(現在でも野外でのコンデンサマイクの使用は躊躇するものだが…)

カプセル部とアンプ部は完全に分離していて、カプセルを変えることによって指向性を変化させることが出来た。(M7がカーディオイド・M8が双指向性・M9が無指向性)特にM7はよく使われ、その当時のラジオ放送や実験的に始まっていたテレビ放送などを中心に大活躍をした。このカプセルはゲッフェルブランドのCMV563aとも互換性がある。

現在ではほぼ入手は不可能だけでなく、他のビンテージマイクに比べ現在の音源に使いにくいこともあって使用されることはほとんどないが、状態のいいものは他にない独特の上品な音を出す。(レンジ自体は狭い感じ)また内部で使用されているRE084というナス型の三極管も入手が難しい。



#### アンプ部内部

下部に大型のトランスが見えるが、その上の筒状の部分に三極管 RE084 が内蔵されている。セクション毎に分離して完全にシールドされた内部構造が信頼性の高さを生んだといえる。

カプセルはこのように  
ジュエルボックスに  
入っている。



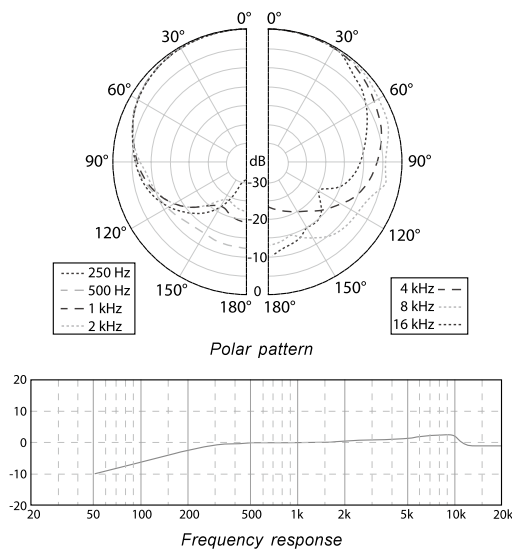
C-2 (BEHRINGER)			
種類	コンデンサ型	指向性	カーディオイド
主な用途	アコースティックギターなど	希望小売価格	11,445 円 (2本)
使用頻度	PA ★	REC ★	放送

一本あたり 5000 円程度のコンデンサマイク。小さくて軽いボディにハイパススイッチ・パッドスイッチまで内蔵している。(共通なのでどちらかのみ。) ハイパスは 120Hz で -6dB とかなり緩やかなかりだ。パッドは -10dB となっている。

明るい音質ではあるがそれほどざらざらした音ではないので、嫌みな音にはなりにくいが超高域のニュアンスには欠ける。また大音量で急激な立ち上がりの音への追従も少し弱いので、アコースティックギターのアルペジオや小音量のパーカッションに向くとはいえる。

AKG などに比べて 1/10 ~ 1/20 の価格であるにもかかわらず性能が 1/10 以下ではないところがミソ。目立ちにくく軽いで演劇の舞台セットにテープで貼り付けたり、合唱の収音でストレートスタンド+グースネックで使用するなどアイデア次第でいろいろと使い道があるマイクだ。

一応ステレオペアということになっているが、それほど特性はそろっておらず、単に 2本組と考えた方がいい。通称「しーつー」 95g



C-2 の周波数特性と指向性パターン